

産業廃棄物の目標・新たな指標の整理

表 1-2-1 目標の課題

目標	課題
排出量	・排出量は景気や需給の状況等によって変動するため、排出抑制の進捗状況を評価することが困難
再生利用率 [※]	・排出量の約 69% を占める汚泥は水分を多く含むため、その影響を受ける。
最終処分量	・景気や需給の状況等によって変動する排出量の影響を受ける可能性がある。

※再生利用率＝再生利用量／排出量

表 1-2-2 新たな指標の整理

指標	長所	短所
① 排出量から減量化量を除いて再生利用率、最終処分率を表す。	・水分等の影響を除いて、実態を表すことができる。	・木くずの焼却等、固形分の減量化量も合わせて除かれる。 ^{※1}
② 排出量から汚泥の減量化量を除いて再生利用率、最終処分率を表す。	・汚泥の水分等の影響を除いて、再生利用の実態を表すことができる。	・廃酸、廃アルカリ等液体廃棄物の水分の影響を除くことができない。
③ 排出量、再生利用量から汚泥を除いて再生利用率、最終処分率を表す。	・汚泥の影響を除いて、汚泥以外の再生利用の実態を表すことができる。	・汚泥の再生利用の状況が反映されない。 ・廃酸、廃アルカリ等液体廃棄物の水分の影響を除くことができない。

※1：木くずの焼却等による減量化量は、減量化量全体(998万t)の約2%である。

[再生利用]

- ①排出量から減量化量を除いて表した再生利用率 $= \text{再生利用量} / (\text{排出量} - \text{減量化量})$
- ②排出量から汚泥の減量化量を除いて表した再生利用率 $= \text{再生利用量} / (\text{排出量} - \text{汚泥の減量化量})$
- ③排出量、再生利用量から汚泥を除いて表した再生利用率 $= (\text{再生利用量} - \text{汚泥の再生利用量}) / (\text{排出量} - \text{汚泥の排出量})$

[最終処分]

- ①排出量から減量化量を除いて表した最終処分率 $= \text{最終処分量} / (\text{排出量} - \text{減量化量})$
- ②排出量から汚泥の減量化量を除いて表した最終処分率 $= \text{最終処分量} / (\text{排出量} - \text{汚泥の減量化量})$
- ③排出量、再生利用量から汚泥を除いて表した最終処分率 $= (\text{最終処分量} - \text{汚泥の最終処分量}) / (\text{排出量} - \text{汚泥の排出量})$

図 1-2-1 ①排出量から減量化量を除いて表した場合

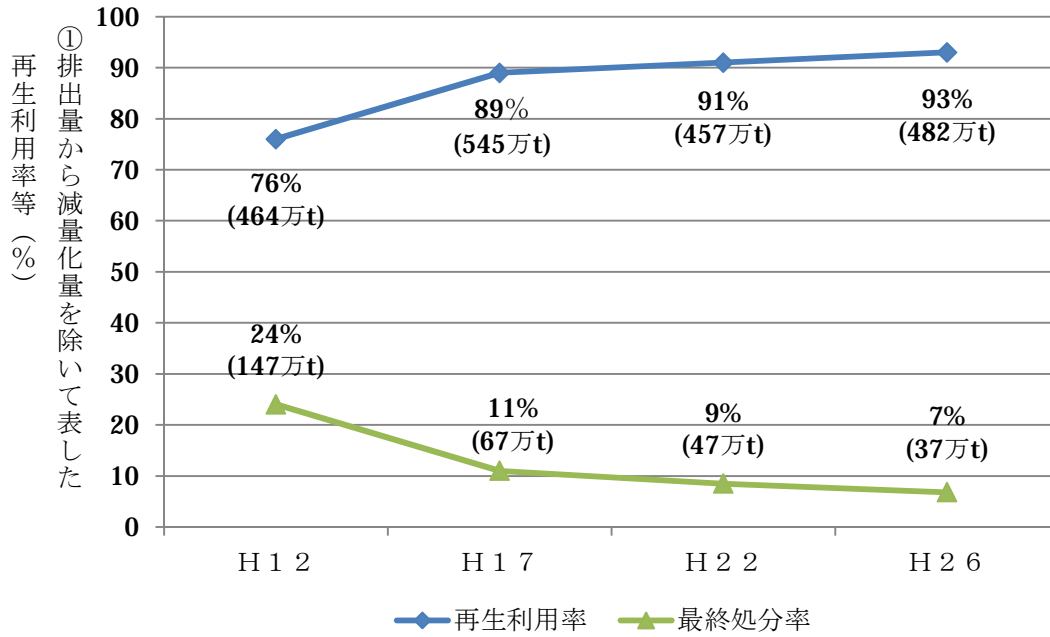


図 1-2-2 ②排出量から汚泥の減量化量を除いて表した場合

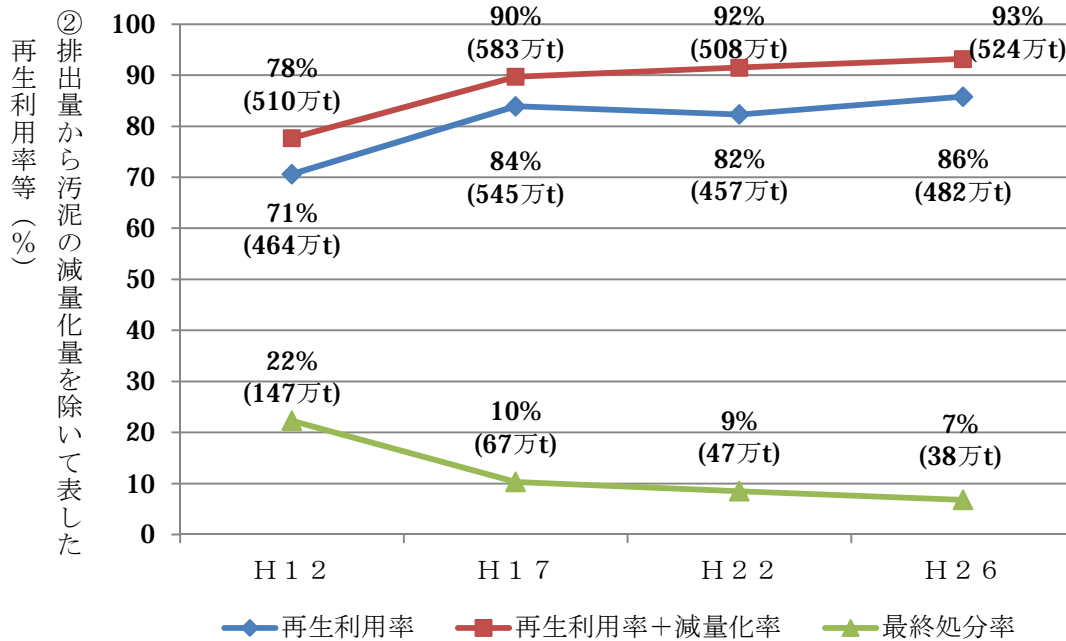


図 1-2-3 ③排出量、再生利用量、最終処分量から汚泥を除いて表した場合

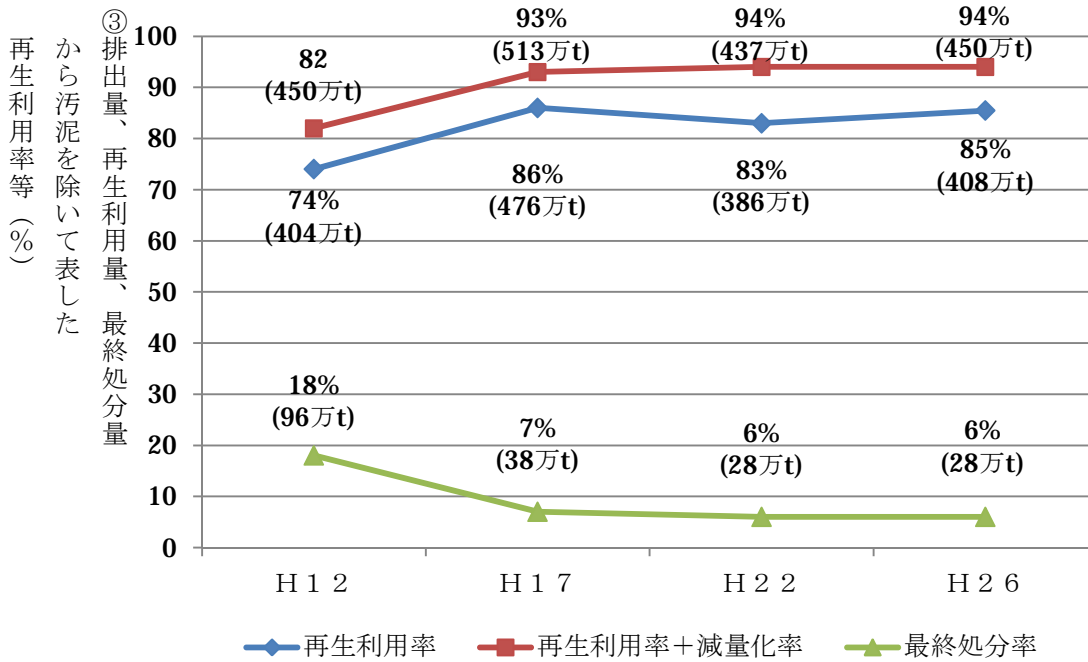


表 1-2-3 大阪府、東京都、全国の処理状況

再生利用	大阪府 (H 2 6)	東京都 (H 2 4)	全国 (H 2 4)
①排出量から減量化量を除いて 表した再生利用率	9 3 %	8 9 %	9 4 %
②排出量から汚泥の減量化量を除いて 表した再生利用率	8 6 %	8 5 %	8 7 %
③排出量、再生利用量から汚泥を除いて 表した再生利用率	8 5 %	8 5 %	8 8 %

最終処分	大阪府 (H 2 6)	東京都 (H 2 4)	全国 (H 2 4)
①排出量から減量化量を除いて 表した最終処分率	7 %	1 1 %	6 %
②排出量から汚泥の減量化量を除いて 表した最終処分率	7 %	1 0 %	6 %
③排出量、最終処分量から汚泥を除いて 表した最終処分率	6 %	1 0 %	4 %